

■ 資料 ■

岩手県内の小学校における冬期体育 (スキー) 実施状況の調査

伊藤 章一* 栗林 徹*

(1988年1月20日受理)

Shoichi ITO AND Toru KURI BAYASHI

The State of Skiing in Physical Education
in Primary Schools in Iwate Prefecture

岩手県内の学校体育において、冬期になると実施されている代表的な学習内容の一つに、スキーを挙げることができる。そこで県内の小学校体育におけるスキー授業の実態を明らかにし、諸問題を検討するためのアンケート調査を行った。

調査対象は、県内11ヶ所の教育事務所を通して、全県下小学校総数496校より、スキー実施校273校を抽出、アンケート用紙を郵送し、207校より回答を得た。回収率は75.8%であった。

アンケートにより基礎的な資料を得ることができた。しかし、岩手県を一つの地域として捉えてしまうと、地理的、気候的な要素、学校の立地条件などにより実施状況が一律ではなく、様々な観点から継続的研究が必要と思われる。

県内学校スキーは、寒冷・積雪地の冬の自然を生かしたスポーツとして、地域環境に相応したスキー形態をより取り入れるべきと思われる。

しかしながら、スキーを体育の教材として行う場合、用具の問題、経済的な問題、実習場所と時間的問題、指導者、指導内容、指導法などの問題が少なくない。この状況において現場教師は、学校スキー研究の必要性を感じており、研究会の設立を期待し、その成果を待ち望んでいることがうかがえた。

〔キーワード〕 冬期体育、スキー、小学校、岩手県、アンケート調査

1. はじめに

岩手県内の小学校体育において、特に寒冷・積雪地では毎年冬期に実施されている学習内容に、スキー・スケート・または雪遊びが挙げられる。

四国4県に匹敵する広範な面積をもつ岩手県の場合、県内の各地区でスキーがどの程度取り入れられ、また、地域に相応したスキー形態がとられているのか、等の実態を明らかにすることは重要なことである。

* 岩手大学教育学部保健体育科

今回は県内のスキーを実施している小学校にアンケート調査を行い、スキーの実施状況をまとめた。実態を明らかにすることによって、実施上の問題点を探り、今後の冬期学校体育（スキー）の充実発展を図ろうとするものである。

2. 方 法

スキー実施校のアンケートに先立ち 県内の11の教育事務所に管内の小学校のスキー実施の有無について調査を依頼し、スキー実施校リストを製作した。

このリストをもとに、スキーを実施している小学校237校にアンケートを郵送し、207通の回答を得た。回収率は75.8%であった。調査期間は1987年3月1日から4月2日であった。

表1には県内11教育事務所からの15地区のスキー実施に関する回答とアンケートの回収率を示した。調査内容は資料1の通りである。

表1 教育事務所の調査によるスキー実施校数とアンケートの回収率

教育事務所名	学校数	実施している学校数	アンケート配布枚数	アンケート回収数	アンケート回収率
岩手 盛岡	110	100 (90.9)	100	69 (69)	69
岩手 岩手	32	31 (96.9)	31	23 (74)	23
岩手 紫波	55	55 (100)	55	35 (64)	35
岩手 稗貫	23	14 (60.9)	14	11 (79)	11
岩手 和賀	26	26 (100)	26	17 (65)	17
岩手 胆江	31	31 (100)	31	28 (90)	28
岩手 西磐井	41	17 (41.5)	17	1 (7)	1
岩手 東磐井	26	2 (7.7)	2	1 (50)	1
岩手 気仙	33	8 (24.2)	8	7 (88)	7
岩手 上閉伊	30	0 (0)	0	0	0
岩手 釜石	37	11 (29.7)	11	11 (100)	11
岩手 釜石	25	1 (4.0)	1	1 (100)	1
岩手 遠野	12	10 (83.3)	10	10 (100)	10
岩手 下閉伊	58	5 (8.6)	5	5 (100)	5
岩手 宮古	36	2 (5.6)	2	2 (100)	2
岩手 下北	22	3 (13.6)	3	3 (100)	3
岩手 九戸	41	12 (29.3)	12	10 (83)	10
岩手 二戸	63	61 (96.8)	61	48 (79)	48
岩手 計	496	273 (55.0)	273	207 (76)	207

注) 教育事務所からの調査で気仙地区にはスキー実施校がなかったので、アンケートの配布は行わなかった。

3. 結果および考察

表1には教育事務所に依頼して調査したスキーの実施状況を示した。全県的に見ると約半数の小学校でなんらかのスキーを実施しているが、地区によりかなりの差があることが、明らかになった。

表2にアンケートの回答があった207校の実施状況を示した。回答のあった小学校のうち3校がスキーを実施していないと回答している。そのため、この3校はアンケートの結果集計から外し、以後の集計は釜石と気仙地区を除いた13地区204校について行った。

表2 スキー行事の実施状況

地区	スキーの実施状況		
	実施	不実施	その他
盛岡	23 (100)	0 (0)	0 (0)
岩手	35 (100)	0 (0)	0 (0)
紫波	11 (100)	0 (0)	0 (0)
稗貫	17 (100)	0 (0)	0 (0)
和賀	28 (100)	0 (0)	0 (0)
胆江	11 (92)	1 (8)	0 (0)
西磐井	1 (100)	0 (0)	0 (0)
東磐井	6 (86)	1 (4)	0 (0)
釜石	0 (0)	1 (100)	0 (0)
遠野	9 (100)	0 (0)	0 (0)
宮古	2 (100)	0 (0)	0 (0)
下北	3 (100)	0 (0)	0 (0)
九戸	10 (100)	0 (0)	0 (0)
二戸	48 (100)	0 (0)	0 (0)
全体	204 (99)	3 (1)	0 (0)

問1はスキーをどのようなかたちで実施しているかを質問したものである。(表3)複数回答であるが、授業として「正課体育時」に実施している学校が最も多く(83%)、「学校行事」として行っている学校も多い(64%)。また、「正課体育時」と「学校行事」の両方で実施している学校は35%であった。

表3 問1. スキー行事の実施状況について

地区	校数	1) 授業として実施 (雪遊びも含む)			2) 授業外として実施		
		正課 体育時	クラブ 学校行事	クラブ 活動	校内スキ ー大会	スキー 教室	市民スキ ー大会
盛岡	校	22	15	4	2	5	10
(N=23)	%	(96)	(65)	(17)	(8.7)	(22)	(43)
岩手	校	31	26	9	11	8	14
(N=35)	%	(89)	(74)	(26)	(31)	(23)	(40)
紫波	校	9	4	0	2	1	1
(N=11)	%	(82)	(36)	(0)	(18)	(9)	(9)
稗貫	校	14	10	1	4	4	4
(N=17)	%	(82)	(59)	(6)	(24)	(24)	(24)
和賀	校	21	21	9	10	6	4
(N=28)	%	(75)	(75)	(32)	(36)	(21)	(14)
胆江	校	8	6	2	1	1	2
(N=11)	%	(73)	(55)	(18)	(9)	(9)	(18)
西磐井	校	0	1	0	0	1	0
(N=1)	%	(0)	(100)	(0)	(0)	(100)	(0)
東磐井	校	4	4	2	1	2	0
(N=6)	%	(67)	(67)	(33)	(17)	(33)	(0)
遠野	校	8	4	0	0	3	4
(N=9)	%	(89)	(44)	(0)	(0)	(33)	(44)
官古	校	1	2	0	0	0	0
(N=2)	%	(50)	(100)	(0)	(0)	(0)	(0)
下北	校	3	2	0	0	0	0
(N=3)	%	(100)	(67)	(0)	(0)	(0)	(0)
九戸	校	5	7	1	3	4	2
(N=10)	%	(50)	(70)	(10)	(30)	(40)	(20)
二戸	校	44	29	13	23	11	14
(N=48)	%	(92)	(60)	(27)	(48)	(23)	(29)
全	校	170	131	41	57	46	55
(N=204)	%	(83)	(64)	(20)	(28)	(23)	(27)

(複数回答) (複数回答)

表4は問2のスキー・スケート・雪遊び等の必要性についての結果を示したものである。実施校のほとんど(99%)がその必要性を認めている。

表4 問2. 積雪、寒冷地の体育時におけるスキー、スケート、または雪遊び等の必要性について

地区	校数	必要	不必要	どちらとも 言えない
盛岡	校	23	0	0
(N=23)	%	(100)	(0)	(0)
岩手	校	35	0	0
(N=35)	%	(100)	(0)	(0)
紫波	校	10	1	0
(N=11)	%	(91)	(9)	(0)
稗貫	校	17	0	0
(N=17)	%	(100)	(0)	(0)
和賀	校	28	0	0
(N=28)	%	(100)	(0)	(0)
胆江	校	11	0	0
(N=11)	%	(100)	(0)	(0)
西磐井	校	1	0	0
(N=1)	%	(100)	(0)	(0)
東磐井	校	6	0	0
(N=6)	%	(100)	(0)	(0)
遠野	校	9	0	0
(N=9)	%	(100)	(0)	(0)
官古	校	2	0	0
(N=2)	%	(100)	(0)	(0)
下北	校	3	0	0
(N=3)	%	(100)	(0)	(0)
九戸	校	9	0	1
(N=10)	%	(90)	(0)	(10)
二戸	校	48	0	0
(N=48)	%	(100)	(0)	(0)
全	校	202	1	1
(N=204)	%	(99)	(0.5)	(0.5)

表5は問3のスキーの体育教材としての意義についての結果を示したものである。ほとんどが「生徒の体力・気力向上に関して」(96%)、「生徒の健

康・安全の意識向上に関して」(96%)、「雪国の生活の活性化に関して」(95%)その意義を見出し出している。

表5 問3. スキーを体育教材として実施している意義について

地区	校数	1) 生徒の体力・気力向上に関して			2) 生徒の健康・安全の意識向上に関して			3) 雪国の生活の活性化に関して		
		必要	不必要	どちらとも言えない	必要	不必要	どちらとも言えない	必要	不必要	どちらとも言えない
盛岡	22	0	0	0	23	0	0	22	0	1
(N=23)	(96)	(0)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)	(96)	(0)	(4)
岩手	35	0	0	0	33	0	2	34	0	1
(N=35)	(100)	(0)	(0)	(0)	(94)	(0)	(6)	(97)	(0)	(3)
紫波	10	0	1	0	11	0	0	10	0	1
(N=11)	(91)	(0)	(9)	(0)	(100)	(0)	(0)	(91)	(0)	(9)
稗貫	17	0	0	0	16	0	0	16	0	0
(N=17)	(100)	(0)	(0)	(0)	(94)	(0)	(0)	(94)	(0)	(0)
和賀	28	0	0	0	28	0	0	28	0	0
(N=28)	(100)	(0)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)
胆江	10	0	1	0	11	0	0	11	0	0
(N=11)	(91)	(0)	(9)	(0)	(100)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)
西磐井	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
(N=1)	(100)	(0)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)	(0)	(0)	(100)
東磐井	6	0	0	0	6	0	0	6	0	0
(N=6)	(100)	(0)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)
遠野	7	0	0	0	7	0	0	8	0	0
(N=9)	(78)	(0)	(0)	(0)	(78)	(0)	(0)	(89)	(0)	(0)
宮古	2	0	0	0	2	0	0	2	0	0
(N=2)	(100)	(0)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)
下北	3	0	0	0	3	0	0	3	0	0
(N=3)	(100)	(0)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)	(100)	(0)	(0)
九戸	8	0	1	0	8	0	1	7	0	2
(N=10)	(80)	(0)	(0)	(0)	(80)	(0)	(10)	(70)	(0)	(20)
二戸	47	0	0	0	46	0	0	47	0	0
(N=48)	(98)	(0)	(0)	(0)	(95)	(0)	(0)	(98)	(0)	(2)
全体	196	0	3	0	195	0	3	194	0	7
(N=204)	(95)	(0)	(1)	(0)	(96)	(0)	(1)	(95)	(0)	(3)

表6は問4の実施場所についての結果を示したものである。複数解答であるが、「スキー場」での実施が最も多い(61%)。この内、39%は「スキー場」のみで実施しており、61%は他での実施も併せて行っている。また、「校庭」・「校内スキー

スロープ」といった学校敷地内での実施は盛岡・岩手・紫波地区に多く、和賀・二戸・岩手地区など山間部にある学校では、「学校付近の山」でスキーを実施している割合が高い。

表6 問4. スキー実施場所について

地区	校数	スキー実施場所			
		校庭	校内スキー スロープ	学校 付近の山	スキー場
盛岡	18	13	8	17	
(N=23)	(78)	(57)	(35)	(74)	
岩手	23	14	24	20	
(N=35)	(66)	(40)	(69)	(57)	
紫波	5	9	3	4	
(N=11)	(45)	(82)	(27)	(36)	
稗貫	11	12	5	8	
(N=17)	(65)	(71)	(29)	(47)	
和賀	13	11	7	24	
(N=28)	(46)	(39)	(25)	(86)	
胆江	4	6	6	5	
(N=11)	(36)	(55)	(55)	(45)	
西磐井	0	0	1	1	
(N=1)	(0)	(0)	(100)	(100)	
東磐井	2	3	3	3	
(N=6)	(33)	(50)	(50)	(50)	
遠野	3	5	5	4	
(N=9)	(33)	(56)	(56)	(44)	
宮古	1	1	0	1	
(N=2)	(50)	(50)	(0)	(50)	
下北	1	0	3	1	
(N=3)	(33)	(0)	(100)	(33)	
九戸	2	2	4	7	
(N=10)	(20)	(20)	(40)	(70)	
二戸	26	10	36	29	
(N=48)	(54)	(21)	(75)	(60)	
全体	109	86	105	124	
(N=204)	(53)	(42)	(51)	(61)	

(複数回答)

表7はスキーを「正課体育時」・「学校行事」・「クラブ活動」で、それぞれを行っている学校について実施回数・日数・時間数の平均を示したものである。「正課体育時」に実施している学校

では平均で8.7回・11時間であった。「学校行事」として実施しているのは、1日～3日であり、大半は1日・全日としている。

表7 問5. 正課体育時、学校行事、クラブ活動での実施の回数、延べ時間、日数の平均

地 区	正 課 体 育 時			学 校 行 事			ク ラ ブ 活 動		
	回数	延べ時間	日数	回数	延べ時間	日数	回数	延べ時間	日数
盛	8.9	12	9.1	1.2	6	1.1	9.6	12	9.6
岩	9.8	12	9.5	1.6	7.3	1.6	13	12	14
紫	7.2	13	7.4	1.4	4.9	1.4	5	5	5
稗	10	10	8.4	1.2	5.6	1.5	4.5	4.4	5.3
和	8.5	11	8.5	1.3	6.5	1.4	5.9	6.9	5.7
胆	5.4	6.2	5.7	1.2	4.8	1.2	3	2.8	3
西				2	7	1			
東	15	18	15	1	9.6	3	5	7	5
遠	4.3	5	3.6	1.2	5.2	1.2	5	10	5
宮	8	8	8	1	6	2			
下	6	7	5.7	1	5	1	1	1	1
九	10	12	9.8	1.4	6.9	1.4	3	3	3
二	8.4	12	8.2	1.4	6.4	1.4	13	24	16
全	8.7	11	8.4	1.3	9.4	1.4	9.2	12.8	8.6

表8は指導者一人当りの受持ち児童数の平均を実施形態別に示したものである。小学生の場合、スキーの指導を安全にしかも効率的に行うためには、指導者一人当りの受持ち児童数は20人以下が

望ましいと思われる。「クラス単位」・「学年単位」の場合、受持ち児童数は多くならざるを得ない。スキーの指導を安全にしかも効率的に行うために指導法の研究が必要と思われる。

表8 問6. 実施形態別の指導者1人当り参加児童数

地 区	指 導 者 1 人 当 り の 参 加 児 童 数			
	ク ラ ス 単 位	学 年 単 位	複 数 学 年 単 位	全 校
盛	34.7	24.1	17.3	21.1
岩	25.3	16.3	11.5	10.3
紫	26.5	25	10.8	18
稗	29.1	9.5	20.4	10.3
和	32.4	14.9	10.6	12.7
胆	17.4	11.8	11.7	15.3
西			11.8	11
東		12.1	12.1	8.1
遠	12.3	23.8	20.2	13.7
宮	13		12.9	8.9
下				7.2
九	10	19.7	9.6	6.6
二	17	24.1	13.4	9
全	24	17.2	13.8	12.7

問7では、スキーの指導には他種目にくらべ多くの指導者が必要になることを考慮し、スキー指導実施時に外部の指導者をどのように活用しているかを調べた。(表9)57校が「行事」で「自校

教員と外部の指導者で実施」している。しかし、おおよそは「全て自校教員の指導で実施」しており、行事・クラブに地区のPTAから指導者が参加しているのが実態である。

表9 問7. 指導者の構成による実施校数と実施日数の平均

地区	全て自校教員の指導で実施			自校教員と外部の指導者で実施			その他		
	授業	行事	クラブ	授業	行事	クラブ	授業	行事	クラブ
盛岡	15	7	2	2	6				
岩手	10	1.4	13	1.5	3.8				
紫波	21	12	10	5	14			1	
檜	11	1.6	12	2.4	2.1			36	
稗	4	2			3		1		
真	9	1			1.3		1		
和賀	10	2	2		3	2			
胆江	9.3	2	4.5		1.3	1.5			
西磐井	12	8	5	1	9			1	
東磐井	8.8	1.8	6.8	1	1.3			1	
遠野	8	2	2		4				
宮古	11	1	3		7.8				
下北		1							
九戸	1								
二戸	5	6		0	4				
宮古	4	4	2	0	1.8			1	
下北	11	2.3	3.5	2	13	3		1	
九戸	29	20	12	1	1				
二戸	9	3.4	8.3	1	1				
全体	110	64	36	13	57	6	1	2	1
	9.9	2.3	8.4	1.8	2.4	6.1	1	1	36

表10は問8のスキー指導者の技能程度別の人数と全体に対する割合を示したものである。

「S. A. J.有資格者」とは、一般的には、日本スキー連盟指導員ならびに準指導員をさすが、回答のなかには技能テスト1級または2級も含めて回答しているものがあると思われる。しかし、「S. A. J.有資格者」と答えたものは、8.3%と多く

ない。「自信ないが普通に示範・指導できる」と答えたものが最も多く、約半数(49.8%)となっている。また、15%のものが「全く自信がないが指導している」と答えており、問題点と言えよう。教員の技能向上のために研修会を開催するなどの検討が必要と思われる。

表10 問8. スキー指導者の技能程度別の人数と各々の割合

地区	S.A.J.有資格者		無資格であるが技術・指導ともベテラン		自信ないが普通に示範・指導できる		全く自信がないが指導している		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
盛岡	9	1.8	158	32.3	259	53.0	63	12.9	489	100
岩手	33	11.4	38	13.1	180	62.1	39	13.4	290	100
紫波	2	8.3	8	33.3	4	41.7	4	16.7	24	100
檜	8	16.7	15	31.3	16	33.3	9	18.8	48	100
和賀	13	18.8	20	29.0	24	34.8	12	17.4	69	100
胆江	1	5.0	4	20.0	7	35.0	8	40.0	20	100
西磐井	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	2	100
東磐井	2	16.7	5	41.7	7	33.3	1	8.3	12	100
遠野	3	15.8	6	31.6	7	36.8	3	15.8	19	100
宮古	1	25.0	1	25.0	2	50.0	0	0.0	4	100
下北	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	3	100
九戸	4	21.1	7	36.8	4	21.1	4	21.1	19	100
二戸	15	13.0	36	31.3	41	35.7	23	20.0	115	100
全体	93	8.3	299	26.8	555	49.8	167	15.0	1114	100

表11には、問9のスキー用具の準備についてと問10のスキーの実施内容についての結果を示した。

スキー用具の準備については、「各自に準備させる」が主であるが(85%)、小規模校ならびにノルディック種目を主にしている学校では、「学校で準備する」と答えた学校もかなりあった。また、スキー場で学校行事として実施している学校では、スキー場のレンタルスキーを借りる例もあった。「事情により貸与する」と答えたものは経

済的な配慮により行っているようである。スキーの場合、経済的な負担が大きく、用具の準備のあり方についてさらに検討する必要が感じられた。

スキーの実施内容では、「アルペン系が中心」の学校が58%と最も多く、「両方を実施」が25%、「ノルディック系が中心」の学校は11%と少なかった。また、低学年では、「ノルディック系」と「ミニスキー・雪遊び等」が比較的とりいれられている。

表 11 問9. スキー用具の準備について、問10. スキー実施の内容

地区	スキー用具の準備について			スキー実施の内容			
	学校で準備する	各自に用意させる	事情により貸与する	アルペン系が中心	ノルディック系が中心	両方を実施	ミニスキー・雪遊び等
盛岡 (N=23)	0 (0)	23 (100)	0 (0)	19 (83)	0 (0)	3 (13)	1 (4)
岩手 (N=35)	7 (20)	32 (91)	6 (17)	26 (74)	5 (14)	5 (14)	2 (6)
紫波 (N=11)	0 (0)	11 (100)	0 (0)	7 (64)	0 (0)	2 (18)	4 (36)
稗貫 (N=17)	9 (53)	13 (76)	0 (0)	4 (24)	5 (29)	6 (35)	3 (18)
和賀 (N=28)	5 (18)	28 (100)	2 (7)	21 (75)	2 (7)	8 (29)	1 (4)
胆江 (N=11)	3 (27)	8 (72)	2 (18)	2 (18)	2 (18)	3 (27)	5 (45)
西磐井 (N=1)	0 (0)	1 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (100)
東磐井 (N=6)	5 (83)	0 (0)	1 (17)	4 (67)	0 (0)	2 (33)	0 (0)
遠野 (N=9)	4 (44)	6 (67)	2 (22)	2 (22)	1 (11)	3 (33)	2 (22)
宮古 (N=2)	2 (100)	0 (0)	0 (0)	1 (50)	1 (50)	0 (0)	0 (0)
下北 (N=3)	3 (100)	0 (0)	0 (0)	3 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
九戸 (N=10)	2 (20)	6 (60)	2 (20)	6 (60)	0 (0)	0 (0)	4 (40)
二戸 (N=48)	15 (31)	45 (94)	2 (4)	23 (48)	6 (13)	18 (38)	0 (0)
全体 (N=204)	55 (27)	173 (85)	17 (8)	118 (58)	22 (11)	50 (25)	23 (11)

(複数回答)

(複数回答)

表12には、問11の屋外で実施しているスキー以外の種目について、回答の多かったもの(20校以上)を示した。サッカーが一番多く、ソリ、雪上あ

そび、雪合戦、ミニスキーなど雪に関係あるものが多く、また、長距離走、スケートが多かった。

表 12 問11. 屋外で実施しているスキー以外の種目

(多く回答のあったもの)

サッカー	104	校
ソリ	53	校
雪上あそび	47	校
長距離走	43	校
雪合戦	29	校
ミニスキー	24	校
スケート	23	校

表13には、問12のスキー行事における安全対策についての回答を指導体制に関するもの・児童への事前指導・用具に関するもの・練習場所に関するもの・実技指導中の安全対策の5つに分類し、多

いものをあげた。問8（表10）で指導者一人当りの受持ち児童数がかなり多かったことを考えると、指導体制の整備・事前指導・用具の整備・練習場所の選択の重要性がうかがえる。

表13 問12. スキー行事における安全対策
(多く回答のあったもの)

指導体制に関するもの

指導者の確保	23校
独自の巡回するパトロールつける	20校
事前指導を十分行う	19校
教師の役割分担を明確にする	13校
能力別の班編成をする	12校

児童への事前指導

用具の運び方	22校
施設の利用の仕方	20校
スキー場への行き帰りの注意	16校
リフト利用に関しての注意	16校

用具に関するもの

用具の点検・整備	33校
適切な用具の選択についての助言	32校
ビンディングの調整	9校

練習場所に関するもの

天候や雪質に注意する	66校
事前調査を行う	30校
コースの整備	21校
技術程度に適した場所の選択	12校

実技指導中の安全対策

準備運動・整理運動を十分行わせる	56校
スロー走を十分行わせる	48校
平地滑走を十分行わせる	28校
技能に応じた指導を行う	20校
安全な転び方の指導を行う	14校
児童の体調・疲労度に注意する	13校

表14には、問13の指導計画が立案されているか 結果を示した。
 についてと学校スキー研究会の必要性についての

表 14 問 13. 自校または地域の指導内容が作成されていて、それに則って実施していますか。 問 14. 学校スキー研究会の必要性について

地区	区	校	スキーの指導計画について			学校スキー研究会の必要性		
			実施して いる	実施して いない	その他	必要である いる	必要と しない	その他
盛	岡	校	17	4	2	19	1	3
		%	(74)	(17)	(9)	(83)	(4)	(13)
岩	手	校	17	17	1	30	4	1
		%	(49)	(49)	(2)	(86)	(11)	(3)
紫	波	校	4	6	1	8	2	1
		%	(36)	(55)	(9)	(73)	(18)	(9)
梓	黄	校	5	2	10	7	1	9
		%	(29)	(12)	(59)	(41)	(6)	(53)
和	翼	校	18	7	3	22	4	2
		%	(64)	(25)	(11)	(79)	(14)	(7)
鹿	江	校	3	8	0	7	4	0
		%	(27)	(73)	(0)	(64)	(36)	(0)
西	磐	校	0	1	0	1	0	0
		%	(0)	(100)	(0)	(100)	(0)	(0)
東	磐	校	1	4	1	6	0	0
		%	(16)	(67)	(16)	(100)	(0)	(0)
遠	野	校	2	6	1	8	0	1
		%	(22)	(67)	(11)	(89)	(0)	(11)
宮	古	校	1	1	0	2	0	0
		%	(50)	(50)	(0)	(100)	(0)	(0)
下	北	校	2	1	0	2	1	0
		%	(67)	(33)	(0)	(67)	(33)	(0)
九	戸	校	6	3	1	6	2	2
		%	(60)	(30)	(10)	(60)	(20)	(20)
二	戸	校	19	26	3	41	6	1
		%	(40)	(64)	(6)	(85)	(13)	(2)
全	体	校	95	86	23	159	25	20
		%	(47)	(42)	(11)	(78)	(12)	(10)

問13について、自校または地域で指導内容が作成されていて、それに則って実施「している」と答えたのは47%であり、「していない」と答えたのは42%であった。スキーの指導内容といってもその内容は、学年・実施形態・指導形態・児童の技能程度などによって多様なものが必要とされる。今後、他校との情報交換を盛んにし、各校に合った指導計画の作成を進める必要があると思われる。

問14について、学校スキー研究会が必要性について、「必要である」と答えたのが78%であり、「必要としない」と答えたのが12%であった。表1に示したとおり、県内の半数を越える小学校がなんらかのかたちでスキーを実施している。しかし、現在、県内ではこのような研究会はなく、問13の指導内容の作成の面からも、研究会を必要としており、研究会の発足を望んでいるといえる。

4. おわりに

今回、県内11の教育事務所を通じ調査した、スキーを実施している小学校を対象に、スキーの実施状況ならびに学校スキー研究会の必要性についてアンケート調査を行い、県内の小学校におけるスキー実施の概略をつかむことができた。

しかしながら、その実施の実態は多様であり、また、県内各地区によって、地理的・気候的条件が異なるため、県内を一律に捉えることはできない。

今後の冬期学校体育(スキー)をより充実発展させるためには、より詳細な実施状況の調査が必要であり、指導(学習)内容の研究も進めていく必要があると思われる。また、現在、スキーを実施していない学校について、実施の妨げになっている要因についても調査研究していく必要がある。

今回の調査において、学校スキー研究会の必要性を確認することができた。今後、学校スキーについて情報を交換し、研究していく機会を増やす工夫が必要と思われる。

昭和62年3月2日

小学校長

先生

岩手大学教育学部 伊藤章一

小学校におけるスキー行事の実態調査

(註) 今年(昭和62年)は雪不足ため、60年度実施を加味して記入下さい。
尚、スキー実施校については、各教育事務所を通じて事前に調査しています。

※※※ 該当項目の数字、記号に○印、または文章で記入して下さい。※※※

1. スキー行事の実施

- ① 実施
- ② 不実施

1) 授業として(雪遊びを含む)

- ① 正課体育時
- ② 学校行事
- ③ クラブ活動

2) 授業外として

- ① 校内スキー大会
- ② 親と子のスキー教室
- ③ 市民スキー大会

2. 積雪、寒冷地の体育時におけるスキー、スケート、または雪遊び等の必要性について、

- ① 必要
- ② 不必要
- ③ どちらとも言えない

3. スキーを体育教材として実施している意義

1) 生徒の体力、気力向上に関して

- ① 役立つ
- ② 役立たない
- ③ どちらとも言えない

2) 生徒の健康、安全の意識向上に関して

- ① 役立つ
- ② 役立たない
- ③ どちらとも言えない

3) 雪国の生活の活性化に関して

- ① 役立つ
- ② 役立たない
- ③ どちらとも言えない

4) その他

4. スキー実施場所

- ① 校庭
 - ② 校内スキースロープ
 - ③ 学校付近の山
 - ④ スキー場
- ・高さ()m ・長さ()m

5. 実施日数

	(回数)	(延べ時間)	(日数)
① 正課体育時	----- ()	()	()
② 学校行事	----- ()	()	()
③ クラブ活動	----- ()	()	()

6. 実施形態と参加児童数 (生徒数) (指導者数) (イ. 正課時) (ロ. 行事)
- | | | | | | |
|----------|-------|-----|-----|-------|-------|
| ① クラス単位 | | () | () | (イ) | (ロ) |
| ② 学年単位 | | () | () | (イ) | (ロ) |
| ③ 複数学年単位 | | () | () | (イ) | (ロ) |
| ④ 全校 | | () | () | (イ) | (ロ) |

7. 実施日数 (授業) (行事) (クラブ)
- | | | | |
|-------------|-----|-----|-----|
| ① 全て自校教員の指導 | () | () | () |
| ② 自校教員と他指導者 | () | () | () |
| ③ その他 | () | () | () |

8. スキー指導者の技能程度と人数
- | | | |
|-----------------------|-----|---------|
| ① S.A.J.有資格者 | () | 名 |
| ② 無資格であるが技術・指導ともにベテラン | () | 名 |
| ③ 自信がないが普通に師範・指導出来る | () | 名 |
| ④ 全く自信がないが指導している | () | 名 |
| ⑤ 教員数何名のうち何名が指導出来ますか | () | 中 () 名 |

9. スキー用具の準備について
- ① 学校で準備する ② 各自に用意させる ③ 事情のある場合のみ貸与する

10. スキー実施の内容
- | | |
|------------------------|----------------|
| ① アルペン系が中心 | ② ノルディック系が中心 |
| ③ 両方を実施 (ただし学年によって異なる) | ④ ミニスキー、雪遊びが中心 |

11. 屋外で実施しているスキー以外の種目を5つあげて下さい。

- ① _____
 ② _____
 ③ _____
 ④ _____
 ⑤ _____

12. スキー行事における安全対策をどのように考えていますか。具体的に記入して下さい。

- ① _____
 ② _____
 ③ _____

13. 自校または地域の指導内容が作成されていて、それに則って実施

- ① している。 ② していない。

14. 学校スキー研究会の必要性について

- ① 必要である。 ② 必要としない。

※※※ご協力ありがとうございました。※※※